



がんセンターたより

INDEX

- ロボット手術センター開設について... 2・3
- コラム がんと病理診断..... 4
- 学会報告 4
- 新診療科部長就任のご挨拶..... 5
- セミナー・勉強会等のお知らせ 5
- 治験ニュース 6
- 受診方法のご案内 6
- 編集後記 6

ロボット手術センター 開設について



多職種で取り組む 精緻で高度な技術の提供を

Q ロボット手術センターを開設した 経緯を教えてください

ロボット手術は最新のテクノロジーによってもたらされる人の目や手を遙かに超える解像度と精緻な技術の提供を可能にしました。がん専門病院ならではの蓄積した英知を結集したがんの根治を前提とした負担の少ない手術を広くご提供するために、診療科を超え、ロボット手術に関わる他職種にわたる手術室スタッフと一体となって取り組むロボット手術センターを開設しました。

がんの治療だからこそ、 しっかり治せるからだにやさしい手術へ

Q ロボット手術の良いところは なんですか？

がんの手術は治すことが一番、だから取りきるためには手術は大きく、負担が増えても仕方がない、と長く信じられてきました。特に良性腫瘍で広く普及している腹腔鏡下手術では、傷が小さく入院期間が短いことが強調されますが、ロボット手術の真髄は、がん根治のために最も大事な細部にわたる視野と自由度の高い操作を可能とすることと考えます。もちろん結果としてからだにやさしい、早い社会復帰を可能にすることで、手術後も諦めることのない生活の実現に繋がります。



年々拡大していく対象疾患とパフォーマンスの向上

Q 対象となる疾患はなんですか？

泌尿器科	●前立腺がん ●腎がん ●膀胱がん 前立腺全摘術、腎部分切除術、腎摘除術、膀胱全摘術、 回腸導管増設術
婦人科	●子宮体がん ●子宮頸部異形成など 子宮体部悪性腫瘍手術（リンパ節郭清含）、 腔式子宮全摘術
大腸外科	●直腸がん ●結腸がん ロボット支援下結腸切除術、 ロボット支援下直腸切除術、直腸切断術
呼吸器外科	●肺がん ●転移性肺腫瘍 ●縦隔腫瘍 肺葉切除術、肺区域切除術、縦隔腫瘍摘出術
肝胆膵外科	●肝細胞がん ●転移性肝腫瘍 ●膵がん ●膵嚢胞性腫瘍 ロボット支援下肝部分切除術、ロボット支援下膵体尾部切 除術、ロボット支援下膵頭十二指腸切除術
胃食道外科	●胃がん ●食道がん ロボット支援下幽門側胃切除術、ロボット支援下噴門側 胃切除術、ロボット支援下胃全摘術、ロボット支援下食 道切除術

紹介・逆紹介を通じて地域連携を深める

Q 患者さんを紹介するにはどうしたらよいですか？

疾患別に各診療科のご予約をお取りください。診療科に迷う場合は、適時相談員が対応させていただきますので、お気軽にお問い合わせください。

医療機関専用予約ダイヤル

045-520-2210

患者さん専用予約ダイヤル

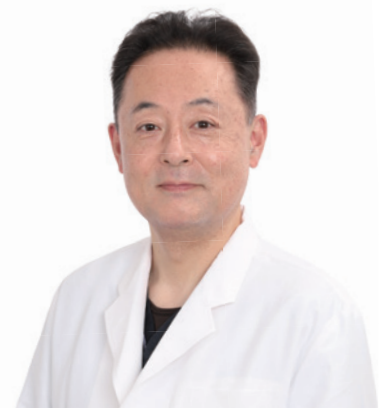
045-520-2204

Voice

センター長としてのご挨拶・意気込み

がんになっても諦めない、 チームで支える低侵襲な手術

がん手術治療は初回治療をどのようなメソッドで最善の選択と準備を行い、実施するかが最も重要です。ロボット手術を無事終わられてよかった、と患者さんにも紹介いただく先生方にも、自信をもってお伝えしたい、ロボット手術センタースタッフ全員の想いです。我々は、がん専門病院で培った多くの手術経験と明確なエビデンスの下に、様々な医療職が関わる最先端のがん専門手術チームとして、手術前から手術後まで患者さんやご家族に寄り添いながら、サイエンスにやさしさを乗せて展開してまいります。ぜひお気軽にご相談ください。



ロボット手術センター長
佐治 晴哉

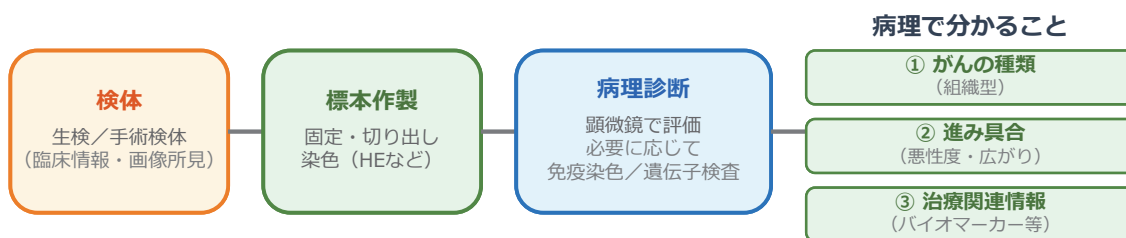
コラム

がんと病理診断

病理診断科部長 大久保 陽一郎

地域の先生方には、いつも患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。がんの診療では、画像や採血に加えて「病理診断」が治療方針を支える大切な土台になります。病理診断では、採取された検体を顕微鏡で詳しく観察し、がんの種類（組織型）や進み具合（悪性度・広がり）を評価します。さらに必要に応じて免疫染色や遺伝子検査を行い、治療選択に役立つ情報（バイオマーカーなど）を確認します。検体の部位や臨床経過、画像所見などの情報を共有いただくことで、より適切で分かりやすい報告につながります。今後も地域の先生方と連携し、患者さんにとって最善の医療につながるよう努めて参ります。

病理診断で"がんの正体"を確かめ、治療につなげます



臨床情報の共有が、より正確な診断につながります

学会報告

The 2nd NUS-Kanagawa Cancer Symposium報告

2025年12月1日 横浜市立大学福浦キャンパス

臨床研究所 小井 詰 史朗

2023年9月にシンガポールにおいて神奈川県国際展開支援事業の一環としてシンガポール国立大学（NUS）との合同シンポジウムが行われましたが、第2回目のシンポジウムが2025年12月1日に開催されました。

本シンポジウムではNUSから5名の研究者を招き、横浜市立大学、実験動物中央研究所、神奈川県立がんセンター臨床研究所の研究者とともに最新のがん研究について発表が行われました。

当研究所からは、5名の研究者が発表して活発な討論が行われました。

NUSの研究発表を始めハイレベルな研究内容に触れ、刺激を受けたのに加えて新たな研究者間のネットワーク構築にも繋がったと思います。

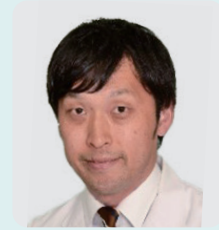
今回のシンポジウム開催が将来の研究発展に繋がるよう努力して参ります。



新診療科部長 就任のご挨拶

2025年12月より、消化器内科（消化管）部長を拝命いたしました
おおすみ ひろき
大隅 寛木と申します。

当科は、最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの薬物療法のみならず、放射線を組み合わせた集学的治療ならびに消化器内科（内視鏡）と協働した内視鏡治療も行っております。患者さんの価値観に寄り添う共同意思決定を重視し、初診から治療開始まで最短のスケジュールを進めることを心がけております。またより多くの治療選択肢を提供できるよう、最新の治験や臨床試験を数多く実施できる体制を整えております。現在の治療方針についてのご不安や、新たな可能性を模索したいといったセカンドオピニオンのご相談も随時受け付けておりますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。



消化器内科（消化管）部長
大隅 寛木

セミナー・勉強会等のお知らせ

▶臨床腫瘍セミナー

形式 WEB開催

時間 17:30～18:30

対象 医療従事者

定員 100名

●事前登録はこちら

右の2次元コードより、
事前登録をお願い申し上げます。



神奈川県立がんセンター 臨床腫瘍セミナー Q

\POINT1/

現役医師による解説

実際に当センターの外來診療や手術を担当する医師が講師を務めます！

\POINT2/

ご自宅や診療後でも参加可能

WEB開催なので、ご自宅や診療後のクリニックなど、場所を選ばずご参加いただけます！

\POINT3/

症例 & 研究データ

セミナーでは、ここでしか観られない貴重な臨床研究データや症例も！

開催スケジュール

2026年

5月14日(木) 「がんゲノム医療」

6月11日(木) 「消化管がんの化学療法 ～大腸癌～」

7月 2日(木) 「白血病」

7月30日(木) 「遺伝診療」

10月 8日(木) 「東洋医学」

11月19日(木) 「重粒子線治療」

12月17日(木) 「多発性骨髄腫」

2027年

1月14日(木) 「肺癌の診断と治療」

2月18日(木) 「腎癌・前立腺癌」

3月 4日(木) 「乳癌」

※スケジュールが追加・変更する場合があります。

治験
ニュース

当センターでは、募集中の治験等の情報をホームページに掲載しています。トップページから右上の「治験・臨床研究」をクリック後、「治験一覧」をご覧ください。左記のQRコードからもアクセス可能です。



HPはこちらから

募集中の治験情報 (疾患別・2025年12月5日時点)

①非小細胞肺がん	25件	⑩肝細胞がん	2件
②固形がん	4件	⑪神経内分泌がん	1件
③胆道がん	6件	⑫多発性骨髄腫	1件
④膀胱がん	6件	⑬B細胞性非ホジキンリンパ腫	1件
⑤再発悪性神経膠腫	1件	⑭乳がん	5件
⑥胃がん	4件	⑮頭頸部扁平上皮癌	1件
⑦食道がん	2件	⑯卵巣がん	1件
⑧直腸がん	2件		
⑨ NSCLC、メラノーマ、HNSCC、GC、CRC、ESCC	1件		


※同じ疾患でも対象が異なる場合があります。詳細はホームページをご確認ください。
※掲載していない治験もあるため、気になる疾患がありましたら、お電話等でお問い合わせください。

受診方法のご案内

予約
方法

神奈川県立がんセンターは、紹介予約制を採っています。患者さんに紹介状をお渡しいただき、下記電話番号へ予約申し込みするようお願いいたします。

初診予約 (がん相談支援センター)

 **045-520-2204** (医療機関専用)

 **045-520-2210** (患者さん専用)

受付時間 8:30~17:00

インターネット
予約申込ページは
こちら



編集後記

冬の寒さが続く中にも、少しずつ春の気配を感じる季節となりました。今号では、ロボット手術センターの開設を特集としてお届けしています。がん専門病院として培ってきた知見と、多職種が連携するチーム医療により、精緻で患者さんにやさしい手術が広がっています。ロボット、AI、DXなど医療技術が飛躍的に進歩する一方で、患者さんと向き合う医療者としての姿勢こそが医療の根幹であることを、あらためて実感しています。本誌が、患者さんを共に支える皆さまとの連携を深める一助となれば幸いです。

副院長兼地域連携室長 岸田 健